

県水協たより



号外

平成23年10月1日

発行/社団法人 山形県水質保全協会事務局
東根市大字野田695番地の8 TEL 0237-48-2469 FAX 0237-48-2693



全会員総力で支える被災地支援

大地震そして大津波に襲われた浸水被災地で

復旧支援に奮闘

3月11日の東日本大震災の発生に際し、山形県水質保全協会 会員の総力を挙げて被災地のし尿処理支援活動を実施し衛生の確保に尽力した。

上部団体である日本環境保全協会は宇田川会長を本部長とする災害救援対策本部を設置し、被害状況の把握や環境省との連絡・協議に努め、国、都道府県、関係業界の連携ルールの確立を訴え、環境省、宮城県、

山形県、(公社)宮城県生活事業協会、当協会との連携体制を整え宮城県内被災地にバキュームカー、モービル車等を派遣し支援に当たった。

山形県内においては、1月からの大雪の影響を受け、各社業務の遅れ等困難な状況の中会員各位の協力を経て、3月19日より多賀城市、山元町、亘理名取共立衛生処理組合への支援活動に入った。

軽油の確保が難しく被災地においても受け入れ態勢が整わない中、食料や水を積み込み、役場に寝泊りしながら支援活動を行った。

(公社)宮城県生活事業協会と当協会とは、隣の県ということだけではなく、同じ浄化槽指定検査機関であり、日本環境保全協会では、両会長とも副会長職を務める間柄であり、事務局職員も宮城県生活事業協会からは、大変お世話になっております。宮城県の佐藤佑会長も被災されたことを知り3月15日に環清工業(株)青山 武社長より飲料水、食料等救援物資の提供を受け2トトラック満載にし、(公社)宮城県生活事業協会と石巻の避難所への支援に当たり、青山豊会長自ら石巻市へ出向き状況を把握し対応に当たった。



主な支援内容
多賀城市

避難所に設置された仮設トイレのし尿汲み取り清掃と市内各施設の仮設トイレのし尿汲み取り清掃作業を行い、市指定の処理場へ搬入した。

バキュームカー 延14台

作業員 延28名を派遣

3月31日で終了

山元町

下水道管路に溜まった汚水を吸い取り放流可能な下水道へ投入する等の作業に継続的に取り組んだ。

バキュームカー 延252台

作業員 延311名を派遣

5月31日で終了



巨理名取共立衛生処理組合

同 処理組合管内より収集し、岩沼市の仮設タンクに仮置きされたし尿、浄化槽汚泥を下水道山形処理区(天童市)へ午前1回午後1回のペースで40トン/日を搬送する等の支援に当たった。

バキュームカー 延70台

作業員 延84名

モービル車 延129台

作業員 延129名を派遣

白石市の終末処理場の稼働まで継続予定

日本環境保全協会の宇田川会長を本部長とする災害救援対策本部においては、会員有志によりバキュームカー、ごみ収集車、連



絡用車両など32台を用意し宮城県へ無償提供を行うなど復興を支援、東日本大震災復旧・復興義援金を創設し被災地の(公社)宮城県生活環境事業協会へ

二五、二〇〇、〇〇〇円を復旧・復興義援金として寄贈した。当協会においても会員の皆様に協賛をお願い致しましたところ多大な協賛金を賜り厚くお礼申し上げます。

協賛金については、左記の内容で全て日本環境保全協会 東日本大震災復旧・復興義援金へ送金させていただきますので、ご報告いたします。

記

協賛会員 24社

協賛金総額

四、四三〇、〇〇〇円

この大震災において、初期の支援活動から、東日本大震災復旧・復興義援金支援まで、会員の皆様には困難な中で支援活動を行っていただきました事に厚くお礼申し上げます。

また、復興にはまだ遠い道のりでありますが、今後も被災地の要請に応じていきたいと考えておりますので、宜しくお願いいたします。

